



# 新聞晝會

第三十号

書置の写

徳多候（共多）て御願や上ら、私ハ松島高砂町森田  
 徳二郎の妻わかとり者ニテ候が先妻の子と豆掛三年  
 育居候処不斗一と事ニテ候事ニ見替られ追出され共  
 身寄してハ六十一の伯母より外ハ無故の人を願ハ  
 元々ハ成くれど其跡を候と事ニ其方より日を暮

偶歸るゴツクと  
 咄りま叱り音あら出  
 行と賣らるれ夫隠し四月の児が有哉  
 幸抱致候へど妾と夫が同腹や居るニ居るれ  
 の様ニされ無状惜き命捨候也死に跡で息や  
 の氣違ふのとへりぬ様願上らぬ時、いれよ命の  
 憎い物あるニ妊娠下居あら氣も在りぬ死  
 事能々の事と思召御取扱可被下返りぬ  
 徳二郎と妾ととひひ目、一うれ候故直  
 御推量願上候私ハ斯もあら異見

ありとらるる妻が薄く成やと思ふも、却て二人の氣を離り  
 是れを及ぎて恨ハ返さず残念ながら命捨らるり  
 御まより御且那様



妻が、いざとあらうとて、  
 此れを味といたふ、  
 妾ハ、報知六百九十五  
 号、有り

是れ、徳多の  
 後、れ、漸く、  
 書置一命を助け  
 みる、と、思  
 高砂町一、の  
 事

新報

八尾善治